2016 年度　オランダ・ドイツ ESD 研修旅行概要

引率：広島大学大学院教育学研究科　富川光
日本学術振興会特別研究員 PD　阪上弘彬

1.研修旅行の趣旨

本研修は，現職教員・教職志望の学生を対象に，オランダ・ドイツにおける ESD の内容に関連した施設や博物館の見学を通じて，欧州における持続可能な社会の構築に向けた具体的な取り組みやその背景を知る，ESD 実践の意義や必要性を（再）認識する，ESD 教材開発・実践のための視点（具体例）や資料を獲得することを目的とする。

2.研修スケジュール

日付	見学先等	ESD の視点*
8/18	広島空港にて集合 空路にて羽田・ミュンヘン経由でアムステルダムへ移動	
8/19	早朝，電車にてライデンへ移動 Naturalis Biodiversity Center（自然博物館生物多様性センター） Molen de Valk　（風車博物館） 夕方，電車にてアムステルダムへ移動 Anne Frank Huis（アンネフランクの家）	 環（自然資源） 環（自然資源） 社（平和）
8/20	昼過ぎ，空路にてミュンヘンへ移動	
8/21	早朝，電車にてニュルンベルクへ移動 Dokumentationszentrum Reichsparteitagsgelände（ドク・ツェントルム ナチス党大会会場跡） 夕方，電車にてミュンヘンへ移動	 社（平和）
8/22	ミュンヘン KZ-Gedenkstätte Dachu　（ダッハウ強制収容所跡） Riem Viertel　（リーム地区：空港跡地の再開発地区） 夕方，空路にて羽田へ移動	 社（平和） 環（持続可能な都市化）・社会参加の態度
8/23	夕方，羽田を経由して広島到着，広島空港にて解散	

*ESD の視点は UNESCO（2004）:『国際実施計画案』pp.24-26 より。環：環境，社：社会・文化

3.見学先の選定理由及び特徴

ESD 教材開発・実践のしやすさ，ESD の視点である「環境」及び「社会・文化」を考慮し，各 3 箇所，合計 6 か所の見学先を選定した。

環境に関しては，自然資源（生物多様性，エネルギーなど），持続可能な都市化に着目した。生物多様性センターに指定され，体験型の展示がなされている自然博物館，風力エネルギーの利用を展示する風車博物館，空港閉鎖後の環境及び社会階層の混住，職住一致，住民参加が意識され再開発されたリーム地区を見学した。

社会・文化に関しては，平和（第二次世界大戦）に着目し，選定した。参加者が加害者と被害者の両立場から第二次世界大戦を客観的に捉え，学習できるように，被害者の立場から戦時中の被害を展示するアンネフランクの家及びバラック（復元）やガス室・火葬場が残る強制収容所跡，加害者の立場から戦争が起こった背景や証言が展示されるドク・ツェントルムを見学した。

4.研修旅行を振り返って

私たち引率者は見学先への案内に加え，各々の専門の視点から，日常生活における持続可能な取り組み（例えば，公共交通の利用を促す交通運賃・チケットの仕組み，ペットボトル等の回収率向上のためのデポジット制度など）に関するレクチャーを実施し，社会全体で持続可能な開発やそのための行動に取組んでいることを参加者に対して説明した。また研修旅行には，現職教員 3 名に加え，教職希望の学生・院生 2 名が参加した。研修中には，現職教員と学生が積極的に意見を交換（例えば，ESD の視点をどのように授業に組み込むか，教員になるために今（学生の間に）すべきことなど）し，活発な交流が見られるなど，日ごろ現職教員と学生の交流が少ない中で，ともに ESD を学習する貴重な時間であったと感じている。

参加者の集合写真（2016 年 8 月 22 日：ダッハウ強制収容跡）